

住みよいまち古都「城南」

盛岡市

盛岡市は、およそ420年前の1597年に、南部家26代信直公が盛岡城の築城を開始したことから始まり、お城を中心として形成された城下町がもとになっています。1889年に県都・盛岡が誕生し、岩手県の政治と経済の中心として、また北東北の中核都市として発展してきました。また、長い歴史の中で豊かな文化を育み、貴重な歴史的財産を数多く有する、自然と伝統の調和した魅力あるまちづくりが進められてきました。こうした盛岡市にあって、城南地区は産業経済機能が集積した地区、文教地区として、都市の発展に大きな役割を担ってきたことを歴史から見ることができます。

城南地区

城南地区は、盛岡城の東側を南北に流れる中津川の東南に位置し、藩政時代には紺屋町、茸手町などの職人町が活力を生み、八幡宮の門前町の賑わいも地域の重要な文化でした。明治に入り隣接の呉服町と共に洋風建築が市内他地区に先駆けて建設され、市勢近代化の牽引の一端を担うなど発展しました。

現在は、肴町商店街を中心に買い物や人々の交流の拠点として大きな役割を果たしています。さらに、公共交通の便が良く、県庁や市役所、病院にも近く居住環境に恵まれた地区です。

城南地区の東側は、岩山を頂点とする丘陵地で、豊かな自然に恵まれ、その麓には八幡宮をはじめ多くの神社が建立されており、歴史的・文化的資源が豊富な地区といえます。



盛岡天満宮の階段上から岩手山を望む、四季を通して絶景。

6 盛岡天満宮

見学 参拝

【種別】神社。菅原道真(菅公)を祀る、学業上達の守り神。

【いつごろから】延宝8年(1680)、盛岡八幡宮の創建と同年。元々旧寺町と四ツ家町の付近にあり、後々々変遷される。

【主な行事】7月25日例祭、26日菅公祭。露店が並びさんざ踊り等の奉納がある。天神町子ども会の神輿運行もありにぎわう。文庫展は70回を越え、500点近い書道作品が展覧される。毎月25日が月次祭。

【文化財等】「山陰焼絵馬(天保4年(1833):盛岡市指定。

【伝説や習俗等】柴田堪水翁筆塚、啄木歌碑や芭蕉塚など石碑が種々ある。特に愛嬌のある狛犬一対が人気。

【所在地】新庄町 5-43 [C-2] ㊦



7 平安稲荷神社

見学 参拝

【種別】神社。天満宮に付属し、縁の深い神を祭った摂社となっている。

【いつごろから】創建不詳。

【所在地】新庄町 5-43 (盛岡天満宮境内) [C-2] ㊦



8 鹿島神社

見学 参拝

【種別】神社。建御雷之男神(たけみかづちのおのかみ)を祀る。南部直公の施「吹子(ふきこ)の成長祈願に動請。春日大社(本社：常陸鹿島郡)の系統で、天照大神・八幡大神は三社託宣として信仰が普及した。

【いつごろから】寛文元年(1661)創建。八雲神社の北西のあたりにあって小地名「鹿島下」が残ったが、明治4年消失しその祠のみ残った。平成4年に現在地に遷座した。

【所在地】新庄町 5-43 (盛岡天満宮境内) [C-1] ㊦



5 八幡住吉梅宮神社

見学 参拝

【種別】神社。

【いつごろから】不明。

【所在地】天神町 13- [C-1] ㊦



9 新庄稲荷神社

見学 参拝

【種別】神社。

【いつごろから】創建不詳。

【伝説や習俗等】かつて境内に冷泉が湧いており、昭和初期まで「新庄温泉」(湧かし湯)があった。稲荷神社は氏神として清水の湧くところに祀られることが多い。

【所在地】東新庄 2-4-10 盛岡バイパス東側。 [D-1] ㊦



マップ発行にあたって

「城南地区地域づくり委員会」は、平成23年に城南地区福祉推進会を基盤にして設立され、地域にあるさまざまな主体が連携・協力してまちづくりを行う「地域協働」による取組を進めています。

委員会では「住みよいまち古都「城南」」を地域のまちづくりスローガンとして掲げ、「古都の風情が似合う安全なまちづくり」、「古都のぬい賑わいまちづくり」、「古都の文化のいきづまちづくり」、「古都の心かかようまちづくり」の4つの活動テーマに掲げて事業を展開しています。

このマップは、「古都の文化のいきづまちづくり」のテーマのもとで作製し、地域にある歴史的・文化的資源の情報と、それらの資源をまわりながら健康づくりに役立てていただけるウォーキングコースを掲載しています。地域のみなさんが、自分たちの住むまちの地域の歴史をあらためて見直し、いっそう愛着を深めていただくとともに、城南地区の活性化に寄与することを願っています。

作製にあたって、情報提供などに御協力くださいました各位に、心からお礼申し上げます。

発行：平成27年3月 第2版：平成31年3月
城南地区地域づくり委員会
〒020-0821 盛岡市山王町10-25 (盛岡市山王児童・老人福祉センター内)
TEL・FAX 019-654-6269

利用上のおお願い

歴史文化編は、豊富な「地域資源」のうち地域の歴史や文化の醸成につながり、神社仏閣や人々の安心安全なまちづくりに寄与したと思われる施設・建造物等を中心に構成しました。

地域住民で構成されたプロジェクトチームにより情報収集、製作作業を行いました。情報不足や内容の偏り、誤りがあるかもしれません。地域住民の「手づくり」であることに鑑みご容赦下さい。なお、関連する情報等がありましたら、今後の参考のためご提供下さるようお願いいたします。



12 住吉神社

見学 参拝

【種別】神社。底間男命、中間男命、表間男命、神功皇后の4柱を祀る。交通安全、商業繁昌等の守り神。

【いつごろから】康平年間(1058～1065)「前九年の役」の時、源頼義・義家父子が大坂住吉大社の分霊を、当時の厨川村に勧請したものを、寛政7年(1795)南部33世利親が現在地に遷座。

【主な行事】7月14日・15日例祭。

【文化財等】石灯籠4座4村(指定有形文化財)、イチョウ・ケヤキ(指定保存木)。

【所在地】住吉町 9-1 [B-2] ㊦



10 新庄山観音堂

見学 参拝

【種別】観音堂。盛岡三三観音の第三十一番札所。祭神は正観音菩薩、中世の開拓者佐々木加賀の早世した娘(妹)を祀る。

【いつごろから】創建は天正3年(1573)または寛永13年(1636)に南部重信堂源秀院が建立、ともある。寛文4年(1664)に再興。

【主な行事】5月17日直前の土曜日が例祭日で、地域の人でにぎわう。

【伝説や風習】馬頭観音などの石碑が数ある。 【所在地】新庄町 2-41 [C-2] ㊦

11 八雲神社(牛頭天王社)

見学 参拝

【種別】神社。牛頭天王社にして(東夷鳴尊(すさのおのみこと)を祀る。郷土統治の神・農神・厄病よけの神・学問の神、かつては浅岸村の村社。神楽殿もあり祭日には大宴賑わった時期もある。「山王神社のご神体が当社に移された」とある。

【いつごろから】盛岡砂子に、寛文2年(1662)より御無形民俗始まるとある。明治3年神社となる。

【所在地】住吉町 13-57 [C-2] ㊦



14 山王神社

見学 参拝

【種別】神社。大山咋神(またの名を山末之大神)を祀る。

【いつごろから】寛永4年(1687)南部家30代信公の創建。このあたり(山王山)はかつて藤ヶ森、頼ヶ森ともいわれたといふ。古来、土地の鎮守神で、藩政時代は南部公の手厚い保護があった。大正時代、講談所の建設によりご神体は、八雲神社に移された。とある。

【所在地】山王町 7-60(気象台駐車場) [C-3] ㊦



15 東中山 遠光寺

外観

【種別】神社。大山咋尊を祀る。酒造りの神様として城下の酒造業者により勧請。南部杜氏に崇敬されている。元々、上ノ橋町にあった酒造家の宗家近江商人井筒屋の氏神として祀られ、後現在地に遷座。本社は京都松尾神社。

【いつごろから】寛永3年(1706)勧請、神社建立。

【所在地】山王町 1-63 [C-3] ㊦



21 岩手護国神社

見学 参拝

【種別】神社。岩手県ゆかりの殉国の英霊を祀る。

【いつごろから】明治2年、郷土の勤皇の志士目時隆之進命・中島嘉蔵命の二柱を祀るため、茶畑に創建。その後幾多の事変戦役の英霊35,700余柱を祀る。明治14年内丸公園に遷座。明治39年現在地に遷座。現社殿は昭和14年に建立。

【主な行事】春季慰霊大祭は5月3日。

【所在地】八幡町 13-1 [C-4] ㊦



22 高倍神社と包丁塚

見学 参拝

【種別】神社。磐鹿六重命(いわかむつりのみこと)他を祀る。

【いつごろから】昭和54年創建。

【主な行事】6月15日例祭。岩手県内の調理師会の人々によって「包丁式」が奉納される。手を直接触れず、息をかけた刀に魚をさばっていく伝統的な儀式。

【伝説や習俗等】藤原政敏納言が、第58代光孝天皇の食に間てて式によって現すようにこの命により「包丁」の命を創製し、その源となった。調理を生まるとする人々の神を祀る神社。関東以北では唯一の社。

【所在地】八幡町 13-1 [B-4] ㊦



24 神明社(お伊勢さん)

見学 参拝

【種別】神社。天照坐皇大神を祀る。

【いつごろから】延暦の首、坂上田村臣らにより仁王の地に創建。元禄時代に神明町にあったが度々遷座し、明治3年八幡山に移ったが明治17年盛岡大火で焼失した。昭和43年に現在地に遷座。

【主な行事】7月16、17日例祭。【伝説や習俗等】かつては神明神楽(修験神楽)があり、その後洗練され、古典味豊かな民衆芸能となったのが絶えてしまった。

【所在地】八幡町 13-1 [C-4] ㊦



26 梅宮

見学 参拝

【種別】神社。祭神は「酒解神(現在は「大山抵神」)はじめ四柱を祀る。子孫繁栄、婦人の守り神。安産守護、醸造の神。

【いつごろから】寛保元年(1741)南部利親公が創建。明治17年盛岡大火で焼失し、大正13年再建された。現社殿は昭和39年建築されたもの。

【所在地】八幡町 13-1 [B-4] ㊦



28 健康神社

見学 参拝

【種別】神社。

【所在地】八幡町 13-1 [B-4] ㊦



16 護法三神社(千代子稲荷神社)

見学 参拝

【種別】神社。祭神は「千代子安福稲神」「安産稲荷神」「開基茶葉稲神奉尊」。

【いつごろから】千代子安福稲荷は元々江戸千代田城に祀られてあったものが遷座された。

【所在地】山王町 1-63 (遠光寺境内) [B-3] ㊦



17 東顕寺跡(葬地)

見学

【種別】名須川町の東顕寺は盛岡城築城以前からの古刹。一時、この地にあり盛岡が残っている。

【いつごろから】盛岡城築城(1597～)・町割りにあたって、一時移転したところが中野の里東顕寺の由来である。

【所在地】小杉山 2 [C-4] ㊦



18 銭掛稲荷神社

見学 参拝

【種別】神社。志和稲荷神社の分霊を祀る。

【いつごろから】創建不詳。元は盛岡八幡宮境内北側「さくく倉」あたりに鎮座。昭和35年頃現在地に遷座。

【所在地】山王町 5-27 岩手県自治会館東隣、古名「橋坂(いわかざり)」の上。 [C-4] ㊦



29 松尾神社

見学 参拝

【種別】神社。大山咋尊を祀る。酒造りの神様として城下の酒造業者により勧請。南部杜氏に崇敬されている。元々、上ノ橋町にあった酒造家の宗家近江商人井筒屋の氏神として祀られ、後現在地に遷座。本社は京都松尾神社。

【いつごろから】寛永3年(1706)勧請、神社建立。

【所在地】茶畑 1丁目1 [B-4] ㊦



由緒板

「由緒板」記載の一部を紹介しています。全文は現地を探究してください。

19 八幡町(橋)

八幡町は「お八幡さん」の門前町であり、八幡宮の社殿造営(延宝8年・1680年)に併い、町が誕生した。藩政時代から来、明治以降は橋町として橋南と呼ばれ、活気あふれる街であった。

この裏に備命寺(浄土宗)があったのが名前の由来。備命寺(自然山御命寺)は元禄3年(1696年)に西邸という僧が如來堂を建立したことに始まる。

社殿は明治18年に開設され、昭和二年に備公堂ができるまでは、明治から大正にかけて盛岡市唯一の公共施設であり、各種の集会や祭事が行われていた。

11 八幡町と定期市

第30代南部家当主 南部行信公は、延宝8年(1680年)の盛岡八幡宮社殿完成に合わせて、社殿前の水田を埋め立てて参道を通り、八幡町と名付け町割を定めた。

「ぶちようほうまんじゅうは、陽月ぶちようほうまんじゅう本種の登録銘菓でがんで、おらほにすかながん。中に黒蜜こをいれ、菓つこがいていふんんが響つてがぶつこがぶつこを、不調させるときもありませんが、お許しえつてくせんす。

八幡町通(市道中ノ橋通一丁目八幡町線)は、通勤・通学路としての機能のほか、伝統行事や祭事の開催時には、多くの市民や観光客が集まるコミュニティ道路である。

13 八幡町通道路整備事業完成祝賀行事

本事業は、平成23年3月11日の東日本震災により中断したが5月に再開した。そして、9月11日に完成し、1月もお八幡界隈まるごとフェスタ」と称する八幡町通完成祝賀行事を行った。

【いつごろから】延暦の首、坂上田村臣らにより仁王の地に創建。元禄時代に神明町にあったが度々遷座し、明治3年八幡山に移ったが明治17年盛岡大火で焼失した。昭和43年に現在地に遷座。

【いつごろから】延暦の首、坂上田村臣らにより仁王の地に創建。元禄時代に

1 彩園子・一茶寮 (旧井弥商店土蔵)

見学 喫茶

【種別】商業用土蔵。井弥商店の土蔵として建てられたもの。現在は1階が彩園子(貸画廊)、2階が一茶寮(喫茶)で、古風、民芸調の趣がある。

【いっごころから】天明2年(1782)の記録あり。

【所在地】上ノ橋町 1-48 【A-1】

2 旧井弥商店

外観

【種別】井弥商店の店舗として建てられたもので、明治時代を代表する土蔵造りの建物。

【いっごころから】明治末期。

【文化財等】市保存建造物。

【所在地】上ノ橋町 1-48 【A-1】

3 シンジュとキツタ (紺屋町長岡氏)

見学 樹木

【種別】樹木。

【いっごころから】推定樹齢：シンジュ100年、キツタ80年(平成7年指定当時)。

【文化財等】市保存樹木。

【所在地】紺屋町 7-20 【A-1】

4 盛岡バプテスト教会

見学 礼拝

【種別】キリスト教会。日本バプテスト連盟加盟。

【いっごころから】1959年4月15日、日本バプテスト連盟の開拓伝道地のひとつとして開所される。翌年、現在地に移転した。

【主な行事】主日礼拝(日曜日)、祈禱会(水曜日) イエス・キリストの救いと恵みを継承。イースター礼拝、クリスマス礼拝など、伝統的な礼拝が行われる。

【所在地】天神町 10-14 【C-2】

19 カトリック志家教会

見学 礼拝

【種別】教会。

【いっごころから】1956年7月。

【主な行事】毎年12月24日(夜半)25日(日中)にクリスマス行事。

【所在地】志家町 5-16 【B-3】

30 盛岡馬検場跡

跡地のみ

【種別】馬の競りを行った施設。

【いっごころから】写真の建物は明治45年建築。この地方は藩政時代から馬の売買が盛んで「馬市」があり、その中心施設であった。前身は馬町(現、清水町)にあった。馬産地を控え、最盛期は一日平均約200頭の取引があった模様。現在、建物は取壊されている。

【所在地】松尾町 17-15 【B-4】

31 盛岡劇場

見学 喫茶

【種別】有志の出資により開館した洋式劇場で、東北初代の近代演劇専用劇場。

【いっごころから】旧盛岡劇場は大正2年開館(辰野・葛西建築事務所が設計)。昭和32年、全面改装されて「谷村文化センター」として再建。その後昭和53年に解体された。新盛岡劇場は平成2年新築、河内公民館を併設した。

【所在地】松尾町 3-1 【A-4】

43 菊の司酒造土倉

外観

【種別】酒造倉。

【いっごころから】大正末期～昭和14年にかけて数棟が建築されており、内部で建造物がつながっている。酒造用に建築され、現在は主に貯蔵用に使われている。

【所在地】紺屋町 4-33 【A-1】

42 紺屋町番屋 (旧第5分団屯所)

外観

【種別】消防番屋。

【いっごころから】大正2年、六角形の望楼を持つ洋風の番屋に改装された。「与の字橋」にその名が残る「よ箱」の屯所として近年までその役目を担ってきた。

【文化財等】市保存建造物、木造2階望楼付。

【所在地】紺屋町 4-33 【A-2】

39 眞座九 (真九商店)

見学 買物

【種別】建築物 木造2階建て。屋根は瓦葺で壁は漆喰塗り、一部タイル。

【いっごころから】江戸後期から明治後期までに造られた各時代の建物が連続し、豪商の面影を今に伝える。紺屋町側の町屋と裏側の土蔵、土塀は盛岡を代表する景観となっている。土蔵は全部で7棟ある。

【文化財等】市保存建造物。

【所在地】紺屋町 1-31 【A-2】

36 盛岡信用金庫本店 (旧盛岡貯蓄銀行)

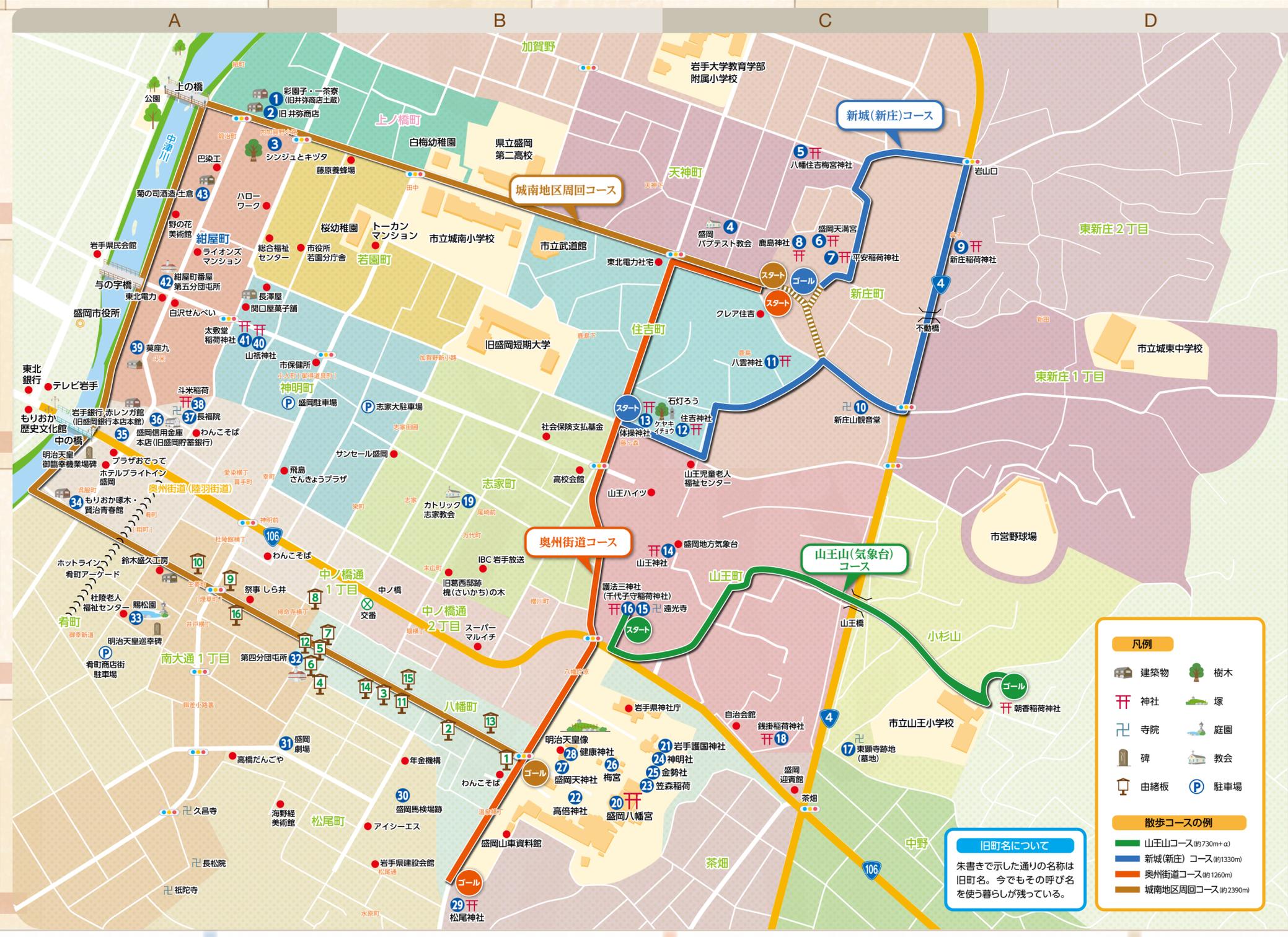
外観

【種別】歴史的建築物(銀行店舗)。

【いっごころから】昭和2年。

【文化財等】市保存建造物。花崗岩による鉄筋コンクリート造3階。

【所在地】中ノ橋通 1-4-6 【A-2】



32 八幡町番屋 (第4分団屯所)

外観

【種別】消防番屋。望楼は旧来の建築物が復元されている。

【いっごころから】旧番屋は明治期の建築。現在の建物は平成15年に建替えられ、八幡地区コミュニティ消防センターとして活用されている。

【所在地】八幡町 1-17 【A-3】

33 賜松園

見学

【種別】池泉回遊式庭園。

【いっごころから】江戸中期。

【文化財・名物等】市保護庭園。江戸時代には花輪家の屋敷であったと言われる。現在、敷地内に社殿老人福祉センターがある。明治17年の盛岡大火で焼失した見馴れた松の代わりに、三本の松の苗木が下賜されたことを記念する若柳宮熾仁親王に由緒あり。

【所在地】南大通 1-7-3 【A-3】

34 もりおか啄木・賢治青春館 (旧九十銀行本店本館)

見学 喫茶

【種別】歴史的建築物(旧銀行店舗)。石川啄木と宮沢賢治の事績顕彰館。

【いっごころから】明治43年(青春館は平成14年会館)。

【主な行事】常設展と企画展。

【文化財等】国指定重要文化財(建造物)、市保存建造物。煉瓦造(一部鉄筋コンクリート造)2階建。角の樹木は「銀座の柳二世」。

【所在地】中ノ橋通 1-1-25 【A-3】

35 岩手銀行 赤レンガ館 (旧盛岡銀行本店本館)

見学 外観

【種別】歴史的建築物(旧銀行店舗)。平成26年現在改装中。

【いっごころから】明治44年。

【文化財等】国指定重要文化財(建造物)、市保存建造物。レンガタイルと花崗岩による煉瓦組積造の建築。地上3階。

【所在地】中ノ橋通 1-2-20 【A-2】

ウォーキングモデルコース①
山王山(气象台)コース・景観お奨めコース (約0.8km)

15 遠光寺 16 護法三神社 150m 气象台上り口 130m 14 山王神社 (气象台駐車場)

山王小学校東端、山手の山腹を渡る「観光道路」で川目に至る。 ← 朝香稲荷神社 ← 山王小学校 ← 山王橋 231m

ポイント
气象台への道は市内屈指の急坂で、ゆっくり上る。山王神社からの眺望は雄大で、市内ほぼ全域と駒ヶ岳などの奥州山脈や志和三山が一望できる。視角の右端には岩手山が鎮座。

ウォーキングモデルコース②
新城(新庄)の原点を探るコース (約1.4km)

12 住吉神社 292m 11 八雲神社 225m 10 新庄観音堂 365m 9 新庄稲荷神社 452m 6 天満宮

ポイント
八雲神社は鳥居から26段の石段を登ると閑静でやや寂れた境内が落ち着いた趣を誘う。天満宮の石段は男階段(北西側)120段、女階段(東側)59段で、中・高校生の運動部の鍛錬名所になっている。体操神社(住吉神社境内)では毎朝6時半からラジオ体操を行っており、誰でも参加できる。

ウォーキングモデルコース③
奥州街道(城東3大神社めぐり)コース (約1.3km)

6 天満宮(天神町階下) 386m 12 住吉神社 585m 20 八幡宮 288m 24 松尾神社

ポイント
⑥～⑭は住吉郵便局前を通る「鹿島下」といった辺り。途中、「手づくり豆腐」の店があり、早朝から開店している。八幡宮や岩手護国神社に立ち寄ると、広い境内にはたくさん神社があり参詣には十分な時間が必要。松尾神社はあわせて27段の階段を登り拝殿に至る。八幡宮には約40本、松尾神社には約20本の桜があり、時季には見事な桜の名所となる。松尾神社の隣は十六羅漢と「茶畑」由来の茶木がある。公衆トイレも便利。

ウォーキングモデルコース④
城南地区周回コース (約2.4km)

6 天満宮(天神町階下) 420m 盛岡二高前 470m 上の橋 295m 与の字橋 240m 中の橋 120m 20 八幡宮大鳥居前 550m 南大通交差点 155m 有町アーケード 140m ホワイト写真館前

ポイント
盛岡二高・城南小学校付近は両側の桜並木が素晴らしい。上の橋の擬宝珠は全部で18基、慶長14、16年の銘がある。中津川沿いの路は四季を通じて花鳥草木や土蔵並木など観がよい。もりおか啄木賢治青春館内の「銀座の柳二世」も風情を感じさせる。あとは八幡宮に向かって真直ぐな道路、10基の「由緒板」をチェックしながら、電線が無く散策設備のカラー舗道を軽快に歩く。